



泗水小だより

学校教育目標「自ら考え なかまと高め合う 泗水小」



泗水小学校
学校だより No18
文責 芹川博文
9月15日(金)



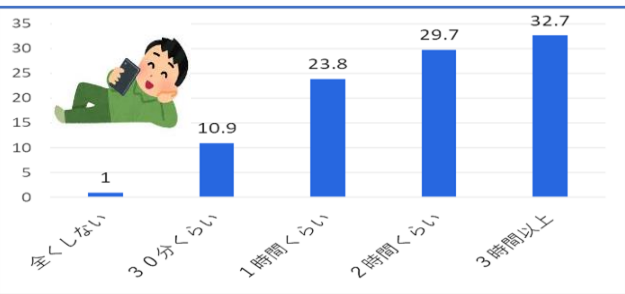
ポテトチップスとスマホの誘惑

子どもにとって、大人以上に難しい



「うちでは、子どもたちがデジタル機器を使う時間を制限している。」
スティーブ・ジョブズ (アップル創業者)

下のグラフは、昨年の5年生、つまり現在の泗水小6年生の平日、1日のゲームやインターネット等の使用時間の調査結果です。約6割の人が2時間以上、その内3割の人が3時間以上使用しているという結果で、非常に心配な状況です。



一度使いたら「やめられない、とまらない」状態になるゲームやインターネット。子どもにとっては大人以上にその誘惑が強いことが脳科学的にも証明されているそうです。

ベストセラー「運動脳」の著者、アンデシュ・ハンセンの本「スマホ脳」に、興味深い内容がありましたので、一部要約を紹介させていただきます。

脳にはいくつもの領域とシステムがある。立食パーティーでポテトチップスのボウルの前に立つと、脳内のあるシステムが「ボウルの中身を全部食べてしまえ」と呼びかける。同時に別のシステムが「全部食べたら恥をかくぞ」とブレーキをかける。歯止めをかける脳内の領域「前頭葉」は、残念ながら成熟するのが一番遅く、25~30歳になるまで完全には発達しない。つまり、ポテトチップスを全部食べちゃダメという脳の部分は、10代の頃はまだ割と無口なのだ。一方、ポテトチップスを全部食べてしまえと背中を押す部分は、この年代ではちっとも静かにしていない。

スマホには人間の注目を引くとしてつもない力がある。その衝動にブレーキをかける領域が子どもや若者のうちは未発達であることが、デジタルなテクノロジーをさらに魅力的なものにしてしまう。結果は見ての通りだ。レストランでスマホばかり眺めている子ども。バスでも。ソファでも。親にスマホを取り上げられて泣き叫ぶこども。議論と争いが永遠に続くのだ。

(アンデシュ・ハンセン著「スマホ脳」より)

若者の夜型、精神不調も増加しているとのこと。対応策については次回で紹介させていただきます。

「実るほど 頭を垂れる 稲穂かな」

～ 前期の終了まで、あと3週間 ～

上の句は、私が小学5年生の時に担任の先生からいただいた言葉です。よっぽど謙虚さが足りなかったのでしょうか。いや、今でもさして変わっていない自分を思われる日々です。

さて、右の写真は、学校水田の稲の成長の様子です。もうじき収穫の時期を迎えます。



田植え 1週間後

田植えから約4か月で稲刈りになると聞きます。植物の不思議さを思うとともに、学校でも「実り」を味わう時期、前期の終了を意識しました。

保護者の皆様にも、第1回学校評価をお願いいたします。お子様の姿、学校職員の様子など、率直なご意見をいただければ幸いです。結果をもとに、職員や学校運営協議会で分析し、お知らせしたいと考えています。



田植え 8週間後

子どもに成長を促すためには、職員も学校も成長し続けなければなりません。そのためには、稲穂のような謙虚さが不可欠だと自戒も含めて思われます。



田植え 10週間後

どの子ども輝く学びをめざして

～ こすもす学級の研究授業から ～

一人一人の生き生きした姿に目を見張りました。今年度2回目の校内大研を9月13日(水)に行い、こすもす2学級の自立活動を、全職員で参観して学び合いました。

全ての教育活動の中で、特別支援教育の視点が大切であると言われます。どの子にとっても、

「楽しかった」「頑張った」という達成感が味わえる、個別最適の学びを目指して参ります。

